

# 母看取る場 巡り合う

## 望ましい 最期

久しぶりに見る母の笑顔に、一人娘の中村悦美さん(40)は「この場所」に巡り合えて良かったと思っ

「今すぐ帰ってきて。お父さんがもう……」

2016年7月、福岡市早良区で暮らす中村さんに、長崎県の離島・五島にあるホームホスピスから連絡があっ

博多港からフェリーで8時間かけて駆け付けた。父・立木真さん(当時71歳)の意識はすでになかった。近くの新上五島町の真家に運び、父の



入所者・父親で話す「三上島花」の平野さん(右)。7月、福岡市西区)・田中勝美撮影

2歳上の母・勝代さんと一緒に、フェリーで何度も通った。かに看取った。

しばらく帰って来た後、施設のお朽化で閉鎖が決まっ夫と4人の子も待つ福岡へと戻った。一人になった勝代さんは「夜が怖い」「ついに代さん(母)と電話で話せるようになった。住み慣れた島で、母が安心して暮らせる場所を探

「父がいたホームホスピスは施設のお朽化で閉鎖が決まっ夫と4人の子も待つ福岡へと戻った。一人になった勝代さんは「夜が怖い」「ついに代さん(母)と電話で話せるようになった。住み慣れた島で、母が安心して暮らせる場所を探

## 施設探し 漂流の末に

小規模多機能型居宅介護施設の一社登録ホーム自体的に提供する介護保険のサービス。1事業所あたり特別定員は29人以下。老人ホームと異なり、入所してできる老人と行き来できるのが特徴。全国に約5000か所ある。

市内の有料老人ホーム。島を出たことのない勝代さんに聞くと、「孫に会えろ」と意欲外に喜んでくれた。昨年3月、福岡に呼び寄せた。

ホームの個室は真新しく、広々とした。しかし、職員が顔をよすことばっかりで、一人の時間を長く過ごすようになった勝代さんは無表情になり、食事ののどを通らなくなった。

「家での最期を希望する人は多いが、難しい場合もある。もう一つの看取りの場所として施設が果たす役割は大きい。三上島花や元銀行員(勝代さん)は言う。平野野子(68)は言う。名古屋大の平川仁尚准教授(老年医学)は「施設職員が利用者のライフストーリーに

「今、やりたいことは何ですか」。昨年10月、施設長に尋ねられた勝代さんは、職員一人を指さして「抱っこ」と言った。白血病のため6歳で成長した姿を重ねていたようだった。皆で笑顔で写真に納まった。

「意見・ご感想をお寄せください」。宛先は社会部(06-5-yaka@yomuri.com)。FAXは06-2-715-5800。

# 独自の書風 尽きぬ情熱

## 古谷蒼韻さん 個展奨励 後進育てる

「著作に全手をかけ、ける作家主義。第35回読売賞法展開催中の25日、94歳で亡くなった作家古谷蒼韻さんの生涯について、三上島花さんが語る。

1924年、京都府に生まれ、京都府師範学校では生進にわたって心酔した中野越南に学んだ。応召を以てして教員生活を送りながら越南の書く「無心の書」

に傾倒し続けたが、やがて師の書風の呪縛から逃れようとして、藤野や木簡に取り組み。そこからあやうい初期の書風が誕生し、「京都」に「ハ」な書風をかくやうに「ハ」の批判をした。村上三島(も)も師として日展に出品を続け、王羲之をベロとした行草をはじめ木簡に汲んだ大字書、藤原生理らを融合した和様の作品な

と独自の書風を確立した。2006年、村上三島の死去を受けて日本芸術院会員に就任。4年後に文化功労者に選ばれ、書道界のリーダーとして力量のある作家の抜てき主義を推進し、後進たちに個展開催を奨励した。この結果訪れたかつてない個展ブームにつかいて本人は「若い世代は私たちより上の世代に比べ書

作の力がいまひとつ。もっと勉強し、いい作品を書いたらわらないと天國の先輩たちにあわせる顔がない」と語っていた。

2013年、日展で筆刻部の不正審査問題があらわかになる、書部門のトップとして責任をとって退任

認定せず、外見ながら「障書者」として算入した例もあったという。

# 37府県 指針徹底せず

認定せず、外見ながら「障書者」として算入した例もあったという。

担当者は「指針の理解が不十分だった」と釈明している。

長崎県では昨年、手帳や大け算教養を今手、教育

相模協会元顧問の

## 訂正おわび

28日(二面)「四季の記者中、古くはれんが中井金花の「返娘」とあるのは「娘」。「相対向」とあるのは「父の向」の誤りでした。確認が不十分で……

## 取手女性遺棄妻夫ら起訴

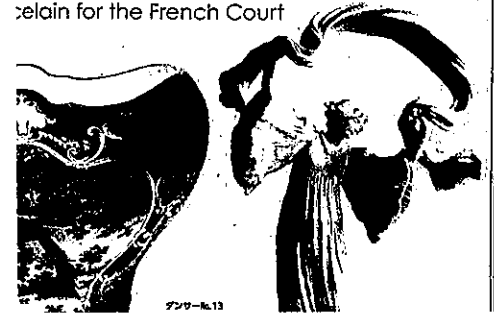
茨城県取手市の民家敷地内で女性の遺体が見つかった事件で、千葉県は28日、女性の夫で、養育費未払い、元銀行員(勝代さん)は言う。平野野子(68)は言う。名古屋大の平川仁尚准教授(老年医学)は「施設職員が利用者のライフストーリーに

## 殺人 監禁容疑男逮捕

福岡県警は28日、北九州市小倉南区北方2、無罪田中啓広容疑者(39)を殺人、逮捕監禁容疑で逮捕した。発表によると、田中容疑者は25日午後6時40分頃、同県水巻町吉田田の路上で、近くの無罪田中啓広(47)を無理やり車に乗せて自宅に連れて行き、両手足を縛るなどして監禁。26日朝、駕水永さんの首を絞めて窒息死させた疑い。県警は捜査を明らかにしていない。田中容疑者が26日午後4時頃、「帰ってきたら、知人が風呂の中で死んでいた」と19番して発覚。駕水永さんは傷を張っていない浴槽で、座った状態で見つかり、27日の司法解剖で首を絞めて殺害された疑いが浮上した。(夕刊既報)

「意見・ご感想をお寄せください」。宛先は社会部(06-5-yaka@yomuri.com)。FAXは06-2-715-5800。

暑さに「救心」。その理由は…… 救心



暑さに「救心」。その理由は…… 救心